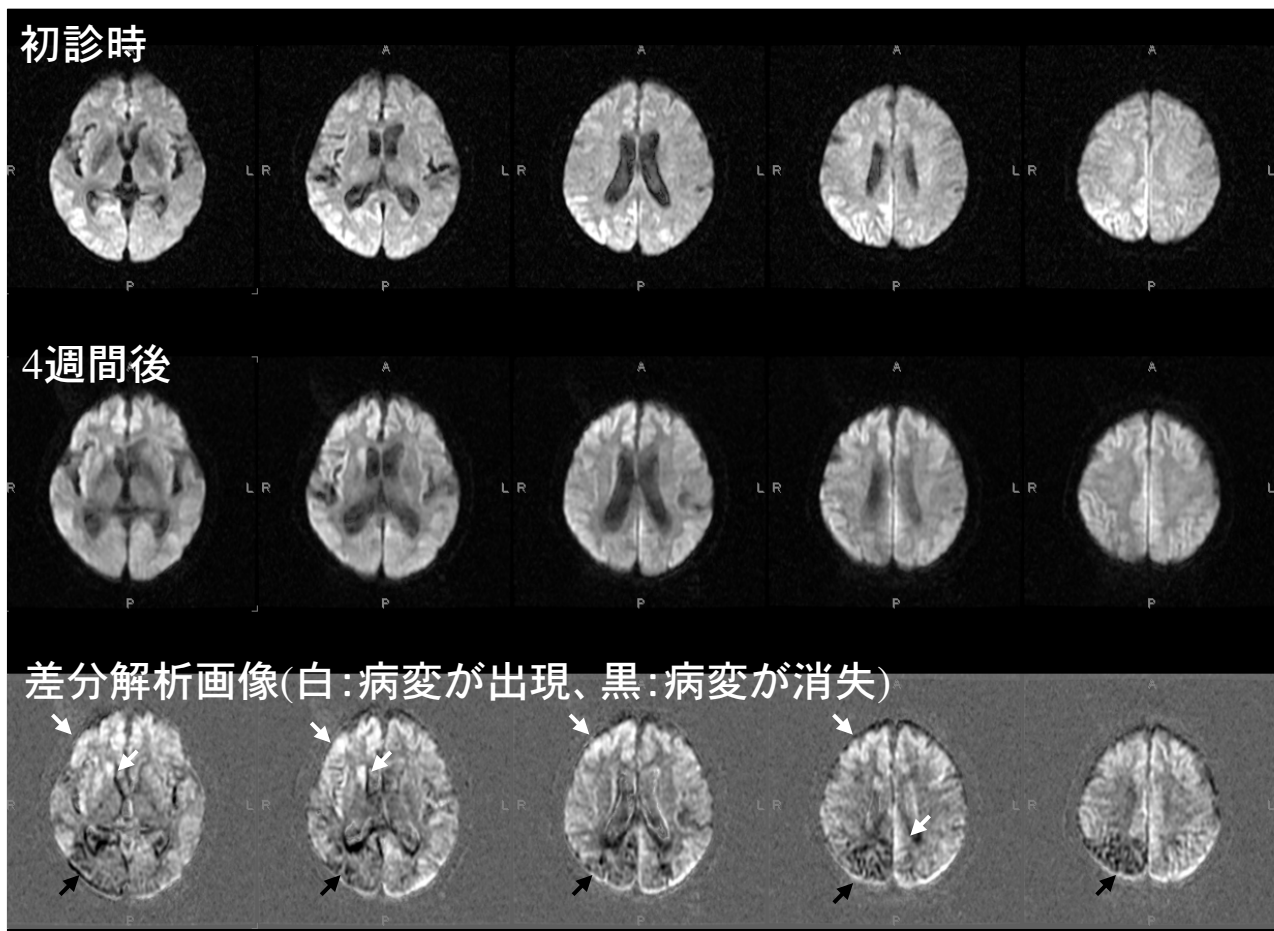


プリオン病早期病変の経時的変化の客観的評価法の確立

研究分担者: 岩手医科大学医歯薬総合研究所超高磁場MRI断・病態研究部門 佐々木真理



解 説

1. MRI拡散強調画像(DWI)はプリオン病の早期診断に広く用いられているが、その経時的変化を客観的・定量的に評価する手法は存在しない。
2. 画像統計解析手法を応用して、DWI所見の経時的変化の客観的評価法の確立を試み、良好な結果を得た。
3. 本手法は、疾患修飾薬による早期治療介入における薬効評価のサロゲートマーカーとしても有望と考えられる。